

秋田大学

環境安全センター報

令和6年度

Environmental Research Center, Akita University

No.44

令和7年4月

秋田大学環境安全センター

目次

令和6年度活動実績

1. 「環境安全に関する講習会」の実施	1
2. 廃液の回収と処理	6

1. 「環境安全に関する講習会」の実施

教職員・学生に対して化学物質等の管理徹底及び安全な取扱いの意識啓発を高めるために実施。

(1) 開催期間: 令和6年10月15日(火)～令和6年12月27日(金)

(2) 開催方式: WebClassによるオンライン開催

(3) 対象: 教職員及び学生

(4) 講習内容

分類	タイトル	講師
講習1	化学物質にかかる安全教育と廃棄薬品の取扱い	大学院理工学研究科 物質科学専攻 応用化学コース 教授 加藤 純雄
講習2	化学物質リスクアセスメント実施ツール CREATE SIMPLEを用いた評価方法	ビデオ視聴(30分)

(5) 受講状況

分類	タイトル	受講者数(名)
講習1	化学物質にかかる安全教育と廃棄薬品の取扱い	160
講習2	化学物質リスクアセスメント実施ツール CREATE SIMPLEを用いた評価方法	162
—	(参考) 講習1と講習2の両方を受講	160

(6) アンケート結果

アンケートについて84名から回答があり、本講習会に対する意見を以下に整理した。各設問に対する回答の集計結果は次ページのグラフ1を参照。

- ・内容全般に対しては好意的な意見が多かった。
- ・Web開催については時間制約がなく、繰り返し視聴できる利便性に対して高い評価であった。
- ・化学物質の危険性に対するリスクアセスメントや安全な取扱いの大切さについて考える契機となったという意見が多く、安全啓蒙の機会となった。
- ・保護具の取扱い、毒劇物の廃棄等に関する教育等の要望もあった。実施時期は年度初めにすること、資料の英文併記等の提案も頂いた。

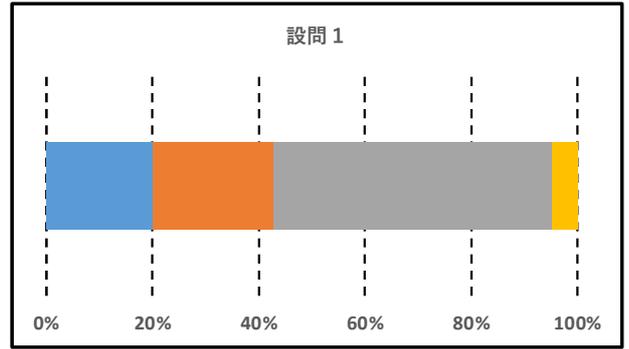
(7) まとめ

- ・内容全般と時間、Webによる開催については、好意的な意見が多く、特に繰り返し視聴できるWeb開催は安全知識の浸透に有効であるため、今後も継続していきたい。
- ・受講者に長いと感じさせないように内容の充実化を図ると共に、講習会全体を通しての開催時間の見直しを引続き検討していく。

設問 1

職種・身分を教えてください

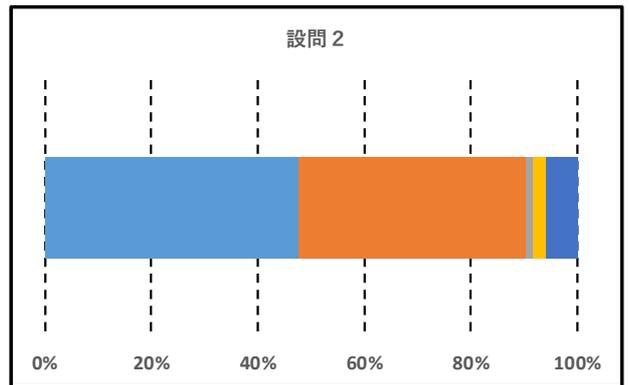
職種・身分	回答数
教員	17
職員	19
学生	44
未回答	4



設問 2

講習の内容全般についてどうでしたか

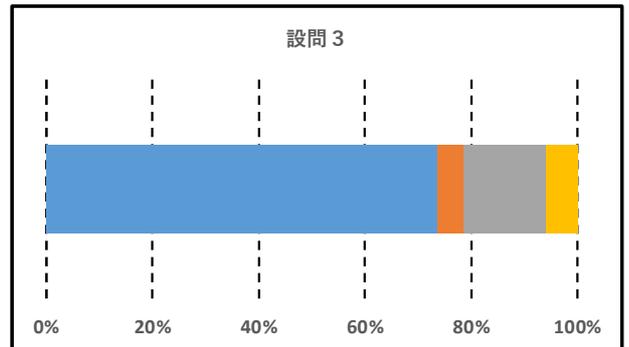
回答内容	回答数
満足	40
どちらかといえば満足	36
どちらかといえば不満	1
不満	2
未回答	5



設問 3

今回もweb上で録画映像による講習会を開催します。会場使用の対面形式と比較し、web開催の印象はどうでしたか？

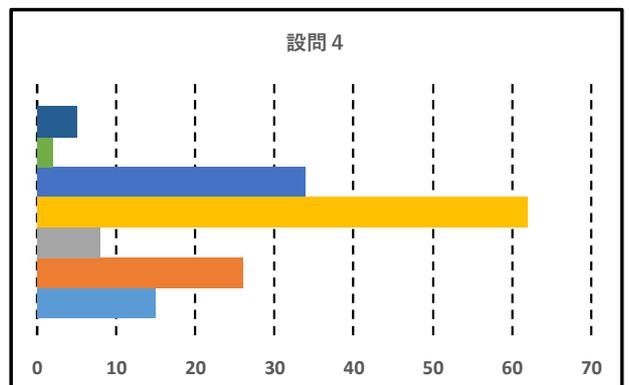
回答内容	回答数
web形式の方がよい	62
会場を設ける形式の方がよい	4
どちらでもよい	13
未回答	5



設問 4

問3の回答を選択した理由を教えてください。(複数選択可)

理由	回答数
感染症のリスクを回避できるため	15
web形式の方が集中できるため	26
対面形式の方が集中できるため	8
期間中いつでも受講できるため	62
期間中何度でも受講できるため	34
その他	2
未回答	5



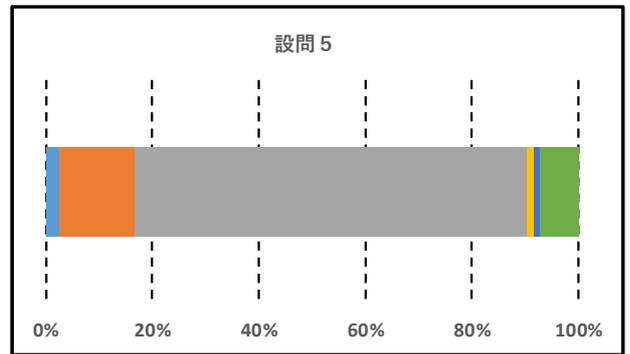
(その他) 受講場所を選ばない
 (その他) 倍速で受講できるのでタイムパフォーマンスがよい

グラフ1.「環境安全に関する講習会」アンケート 設問別の回答集計結果 (次ページへ続く)

設問 5

講習「化学物質にかかる安全教育と廃棄薬品の取扱い」について、講習時間の長さはどうでしたか。

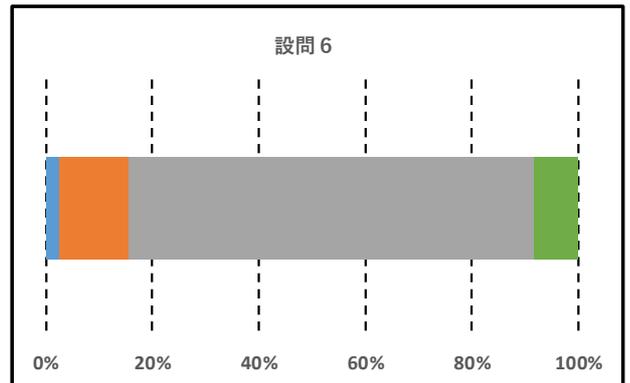
	回答数
長く感じた	2
やや長めに感じた	12
適切だった	62
やや短く感じた	1
短く感じた	1
未回答	6



設問 6

講習「化学物質リスクアセスメント実施ツールCREATE SIMPLEを用いたリスクアセスメント評価方法」について、講習時間の長さはどうでしたか。

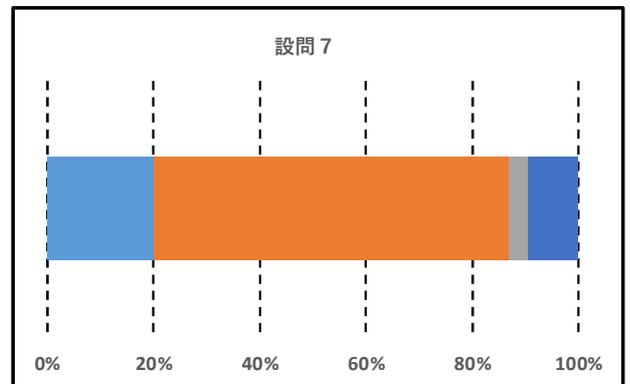
	回答数
長く感じた	2
やや長めに感じた	11
適切だった	64
やや短く感じた	0
短く感じた	0
未回答	7



設問 7

講習会の開催期間（日数）はどうでしたか

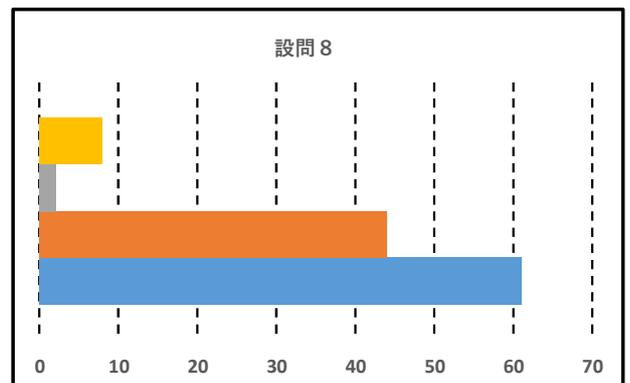
	回答数
長いほうが良い（1か月程度）	17
適切である（2ヶ月）	56
短いほうが良い（1週間）	3
その他（自由記入）	0
未回答	8



設問 8

今後の講習会で取り上げるテーマとして何を希望しますか？（複数選択可）

	回答数
化学物質の安全な取り扱い	61
廃液の取り扱い	44
その他（自由記入）	2
未回答	8



グラフ1.「環境安全に関する講習会」アンケート 設問別の回答集計結果（前ページから続き）

2. 廃液の回収と処理

廃液回収と処理の状況を表 1 に示す。なお、当年度の廃液処理は全て外部の業者に委託しており、廃液処理水の外部放流はない。

表1. 廃液回収と処理の状況

(単位:L)

内訳		令和 5 年度 ^{※1}	令和 6 年度 ^{※1}
前年度繰越廃液量	無機廃液	1,725	10
	有機廃液	0	0
	計	1,725	10
回収廃液量	無機廃液	14,520	12,968
	有機廃液	12,365	12,579
	計	26,884	25,547
注水量	設備点検用	0	0
	中和槽・放流槽洗浄用	0	0
	計	0	0
廃液処理量	無機廃液	16,235	12,978
	有機廃液	12,365	12,579
	計	28,599	25,557
排水量		0	0
次年度繰越廃液量	無機廃液	10	0
	有機廃液	0	0
	計	10	0

(※1) 令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日の期間での回収と処理の状況